

福島市における公民館活動

佐々木 博

キーワード：公民館，公民館登録団体，生涯学習

I はじめに

「地域の性格を知る最も良い指標の一つは、公民館利用サークルの名称である」といわれている。松本市での調査の結果は、ある程度そのことを証明でき（佐々木，1995），教育県長野の中心にある松本市は、知的水準が高く、短歌・俳句・ダンス・語学・コーラスなどの文化・芸能・スポーツなどの自発的活動が盛んであった。同時に、官製の文化講座に東京などから講師を招聘し、魅力あるものになっているほか、同和教育が官民両方で熱心に取りあげられていることが、地域性をよく示していた。

本報文は、福島市（人口28.6万，1995年）の公民館活動の分析によって、福島市の性格の一部を明らかにすることが目的である。

II 公民館の歴史

II-1 公民館の誕生

公民館は第2次大戦後の1949年，文部省次官通牒が地方長官宛に出され，設置が奨励された社会教育施設である。この通牒が指示する公民館とは次のような性格をもつものであるとされた。

- (1) 全国の市町村に設置される。
- (2) 市町村民が集まって談論し，生活上，産業上の指導を受け，交流の場所である。
- (3) 地域の公民学校・図書館・博物館・公会堂・集会所・産業指導所などの機能を兼ねた文化教養機関である。

(4) 民主的な社会教育機関である。

(5) 自治向上の基礎となる社交機関である。

戦後の食糧難，財政難，6・3制による中学校建設などの多くの問題をかかえながら，公民館を設置しなければならなかった。

1949年，社会教育法の施行によって公民館は法的根拠をもち，その20条に目的が次のように記されている。「公民館は，市町村その他一定区域内の住民のために，实际生活に即する教育，学術および文化に関する各種の事業を行ない，もって，住民の教養の向上，健康の増進，情操の純化を図り，生活文化の振興，社会福祉の増進に寄与することを目的とす」。21条に「公民館は市町村が設置する」とあり，22条には「公民館は，第20条の目的達成のために，おおむね，左（本報文では次の事業を行う…）」とある。すなわち，

- (1) 青年学級の実施
- (2) 定期講座の開設
- (3) 討論会・講習会・講演会・実習会・展示会などの開催
- (4) 図書・記録・模型・資料の備えと利用の便宜
- (5) 体育・レクリエーションなどの開催
- (6) 各種団体・機関の連絡
- (7) その施設を住民の集会その他の公共の利用に供する

これによって公民館の機能が明確になったが，今日からみると，官制の上からの社会教育的機能の色彩が強く，第2次大戦中の国策遂行のための修養団や国防婦人会の役割の一部が残っている感

じで、住民の自発的文化活動は、わずか（7）の施設提供にみられるのみである。

Ⅱ－2 福島県の公民館の誕生

1946年の文部次官通牒の写しを印刷して、県下市町村、あらゆる団体宛に発送してその設置を勧めた。文書発送と並んで、県社会教育課の職員が各地に出張して、公民館の重要性を強調してまわった。文書発送3ヵ月後の世論調査では、どの市町村も公民館設置には賛成で、新設を企画し、予算措置を講じている市町村もあった。

1946年12月8日、福島県最初の公民館が信夫郡中野村（現福島市飯坂町中野、飯坂市街西方2km）の学校に併設されて開館した。熱心な専任主事鉄貞雄の下に成人教育に実績をあげて近隣町村を驚かせ、のちに小学校と県道を隔てて北西、今日の生活改善センターの向い（北側）に独立の公民館が新設され、現在は飯坂公民館中野分館となっている。翌1947年3月、伊達郡山舟生村除石公民館（現桑折町）が、部落青年団の血と汗の結晶によって、独立の建物として竣工された。

県社会教育課でも公民館推進に積極的な役割をはたしてきた。1947年度を公民館精神普及の年、48年度を公民館建設奨励の年、49年を専任職設置奨励の年、50・51年を公民館内容充実の年、と公民館振興5カ年の目標をたてて努力した。そのかいあって、1951年3月、全国に先がけて100%の設置率を達成した。西崎文部次官が「公民館設置100%達成に心から祝意と敬意を表し、今後の発展を祈ります」と、電文を県教育委員会に寄せている。県社会教育課はいうまでもなく、関係者一同涙を流して「福島県公民館万歳」を叫んだという。

全国一の達成率を背景に、1952年3月、第1回全国公民館大会が福島市公会堂で開催され、全国から館長・主事など1,151人が参加した。1949年度に河沼郡柳津町公民館、50年度に相馬郡石神村公民館、51年度に飯坂町公民館が、全国優良公民館として文部省表彰を受け、「公民館といえば福島県」といわれるほど発展した（福島県教育セン

ター、1975）。

当初は小中学校・役場・農協・寺院の1室を借りた程度の公民館も多く、専任職員の充足率は4割、職員の身分も未確定で、経費不足のものも多かった。1994年の市町村合併によって、旧市町村の本館であったものが分館になったり、専任職員が役場や教育委員会に引き揚げられたり、予算を削られたりして、影響は大きかった。県は1966年に長期総合教育計画で、75年を目標に独立・併置公民館などの整備をしてきた。

1995年10月現在で、福島県90市町村に公民館は441、1市町村平均4.9である。これは小学校（6.0）よりは少ないが、中学校（2.7）よりは多い数である。公民館類似施設・部落館・集会場等となると、その数は3,940、1市町村平均43.8にもものぼる。1995年の公民館の常勤職員は本館766人、分館20、計786人で、1館平均1.8人、本館だけとってみると1館平均約2.5人である。

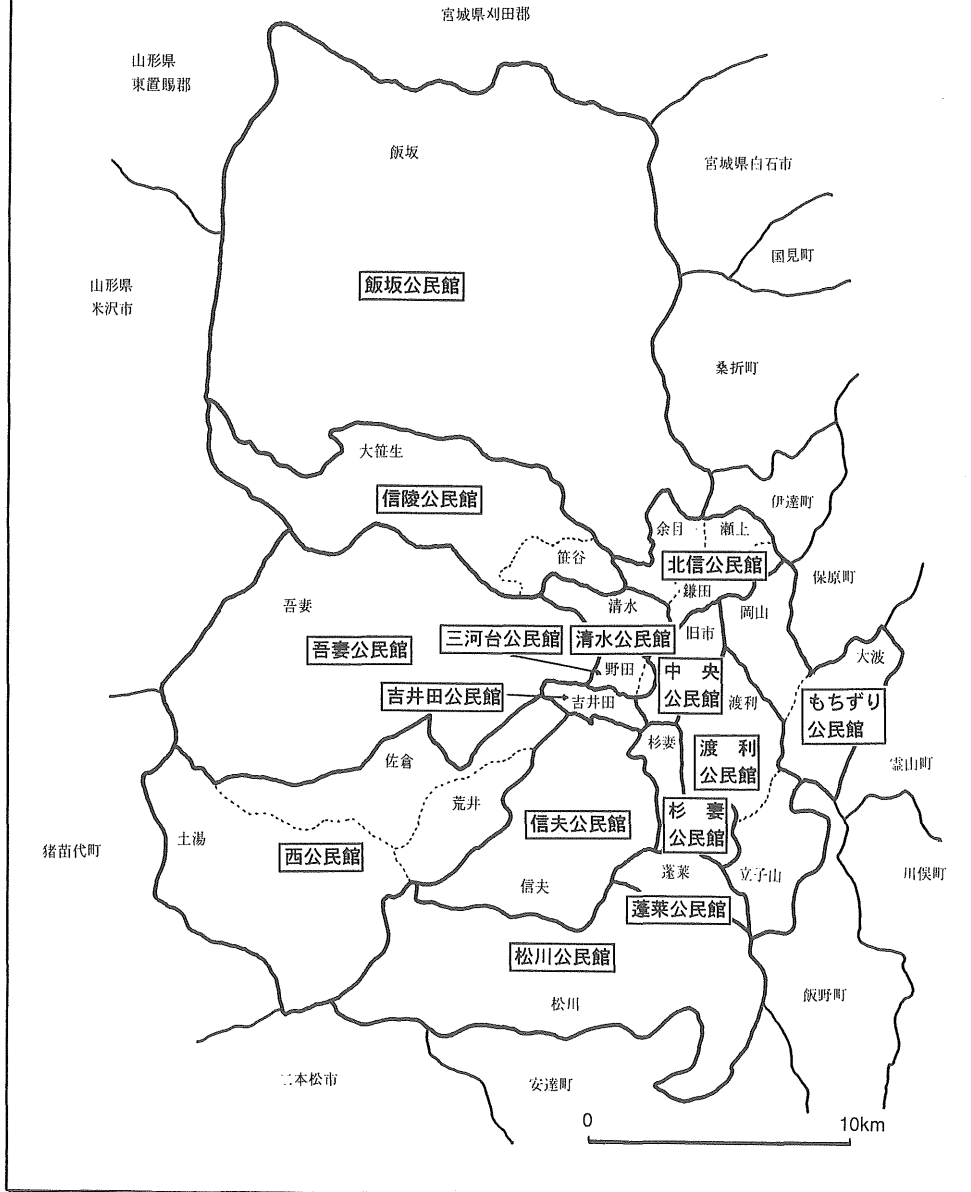
Ⅱ－3 福島市の公民館

「平成8年度福島市の生涯学習・社会教育の沿革」より、公民館建設に関するものを抜粋すると次のようである。

- | | |
|-------|--|
| 1946年 | 12月中野公民館、県下初の公民館として設置（現、飯坂公民館中野分館） |
| 1948 | 市公民館規則制定、市公民館設置 |
| 1951 | 市公民館の分館として、渡利・御山・森合・瀬上公民館を設置 |
| 1952 | 第1回全国公民館大会を市公会堂で開催 |
| 1954 | 余目公民館設置（分館） |
| 1956 | 立子山・岡山・杉妻・佐倉公民館設置（分館） |
| 1964 | 市公会堂を中央公民館と改称飯坂町合併により飯坂公民館設置、中野・平野・湯野・東湯野・茂庭公民館を分館とす |
| 1965 | 西公民館設置、吉井田・荒井・土湯公民館を分館とす |
| 1966 | 町村合併により、松川・信夫公民館設置 |
| 1967 | 市公民館設置条例を改正し、市域に中央・東・北・西・飯坂・松川・信夫公民 |

公 民 館 区 域

1996



第 1 図 公民館区域

	館の7つの本館を設置
1968	吾妻町合併により吾妻公民館設置
1970	東公民館落成、瀬上・鎌田を分館とす
1971	清水公民館落成
1974	北公民館落成、大笹生公民館を分館とす
1975	蓬萊公民館・松川公民館落成
1978	三河台公民館落成
1979	杉妻・吾妻・渡利公民館落成
1980	公民館開放事業実施（12館）
1984	西公民館落成
1993	東公民館移転改築により、北信公民館落成
1994	北公民館移転改築により、信陵公民館落成

1950年代は公民館の設置期、60年代は市町村合併による調整期、70年代以降は人口増加地域への新設と並んで、公民館の大型化への改築期とみることができる。1990年代に入り、高度化社会に対応する社会教育として「生涯教育」が提唱され出し、その活動の場としての公民館の機能が新たに加わってきた。

15の公民館区の人口は、最大は中央公民館の3万人から、最小は吉井田公民館の1.1万人までにわたり、適切に公民館が配置されている（第1図）。松本市の場合は最大の8.1万人から最小2千人と大きな差があった。松本は険しい地形に影響された旧村単元の大きさに影響されてる面があると思われる。

Ⅲ 公民館活動

Ⅲ－1 公民館予算

公民館を自主的に利用している登録団体の個別会計は含めないで、純粋に市費として支出されている予算を検討する。1995年度福島市の歳出は799億円。そのうち支出の第一は土木費で173億円、21.7%、2位民生費133億円、16.6%、3位教育費118億円、14.8%で、教育費は4位の公債費94億円、11.8%よりは若干多い。

教育費118億円の内訳は社会教育費が第1位で

27.9%（33億円）、2位保健体育費21.2%、3位小学校費14.6%の順であった。社会教育費の双壁が、地域学習センター費21.7%（7.1億円）と公民館費21.3%（7億円）である。市民1人当りの社会教育費は（1996年度）は11,551円、そのうち公民館費は2,462円であった。これは1993年の3,555円に比べ大きく減少している。しかし、松本市の場合、公民館費の教育費に占める割合は6.6%（1.4億円）に過ぎず、人口比を考えても（松本市20.2万人）少なく、まして市民1人当り公民館費は693円に過ぎず、福島市の1/3以下である。

市内15公民館にはすべて館長・主任・主事など、最低4人の専任職員がおり、平均は5.3人で中央公民館は13名の職員をかかえている。しかも、他府県では公民館職員は専門職として、公務員として勤務する間は公民館に勤務するのに、福島市では、公民館職員が他の部局のひと人事交流する点が大きな違いである。

Ⅲ－2 公民館利用状況

1995年度福島市内15公民館の総利用回数は26,228、延総利用人数は578,393人、人口28.6万で割ると年間1人が2回公民館を利用しており、松本市の0.8回に比べて倍以上の利用度である。578,000人を総利用回数で割ると22人で、1回当たり平均22人が利用しており、これも松本市の4.1人に比べて5倍となっている。

公民館行事は、1）市当局が準備して一般の参加者を募る官製行事と、2）市民の自主的な発案で、公民館より登録団体の認可を受けて行う民間行事とがある。前者は文部省のガイドラインに沿って行われるので、全国一律で個性に乏しい。地域の性格がよく表れるのは後者の民間事業である。15公民館で年間58万人の利用者の参加行事別では、64.3%・37万人が減免団体の施設利用で、いわゆる自主的民間行事である。2位は「その他（図書館利用・館庭・体育館・テニスコート）」で7.3%・4万人、3位に官製の公民館側の準備した各種スポーツ大会5.9%・3万人、4位に大学などの高齢者教育2.7%・1.5万人、5位に市民

第1表 福島市15公民館への登録団体数(1997年度)

登録団体の分類	登録団体数
家庭教育	4
青少年教育	48
婦人教育	35
成人教育	24
高齢者教育	9
人文・社会・自然科学	23
芸術・文化	19
美術	65
工芸	25
書道	25
音楽	36
邦楽	47
舞踏・演劇・演芸	15
映像・画像	8
文学・文芸	59
茶道・華道	16
郷土芸能	28
スポーツ	34
体操・ダンス・体力づくり (うち社交ダンス)	119 (41)
球技	34
武道・格闘技	6
野外スポーツ	6
ニュースポーツ	15
生活・育児	5
食生活	18
住生活	2
手芸	24
園芸	19
娯楽	26
市民生活	29
医療・ボランティア	23
国際交流	5
外国語	10
防災・交通安全	18
消費生活	2
計	888

福島市生涯学習推進本部福島市教育委員会「生涯学習ガイドブック(平成7年度公民館登録学習団体)」より作成。

学校講座研修会等2.3%・1.3万人と続いている。民間行事参加者が7割に対して、官製行事3割は松本市の場合もほぼ似た比率である。民間行事中には習字・茶道・ダンス・絵画など、かなり高額な会費で運営されている会もあり、表に出ている市の予算と合わせると、相当大きな額が公民館活動に投入されている。

Ⅲ-3 公民館事業

利用者の3割が参加している官製事業は、1. 運営会議、2. 少年教育、3. 青年教育、4. 成人教育、5. 高齢者教育、6. 文芸、7. 体育、8. 住民運動に区分できる。そのうち、福島市では、新成人のつどい、障害者対象の青年講座、青年団体リーダー研修会、青年仲間づくり推進事業、家庭教育学級、市民大学講座などは全市対象で中央公民館で行われている。

福島市生涯学習推進本部・福島市教育委員会は生涯学習資料第19集に「生涯学習ガイドブック(平成7年度公民館登録学習団体)」(47頁)を印刷している。全市15公民館の登録団体名・代表者名・代表者住所・電話番号・学習内容・学習日時・主な講師・公民館名が一覧表になっていて、市民がアプローチできるようになっている。松本市・つくば市にもこれほど立派なものはなく、公民館という公共物を市民が利用できるようにしてあり、さすが公民館先進都市福島の面目躍如たるものがある。

15公民館の登録団体数は888(1995年)、公民館別では中央公民館が142団体で最高、次いで清水公民館95、飯坂公民館94と続き、最低は吉井田公民館(1995年7月1日設置)の20、設立が古いものでは杉妻公民館33、吾妻公民館33である。

888団体を活動類型別に分類すると(第1表)、体操・ダンス・体力づくりが119団体(全体の13.4%)でトップ、次いで美術65(7.3%)、文学・文芸59(6.6%)、青少年教育48(5.4%)、邦楽47(5.2%)である。トップグループの体操・ダンス・体力づくり119団体のうち、社交ダンスが41(4.6%)、しかもその団体はすべての公民館にあ

り、松川公民館には6団体、清水公民館には5団体あって、ほとんど毎夜社交ダンスの団体が利用し、夜間に限れば「公民館活動とは社交ダンス」かと思われるほどの盛況ぶりである点は、つくば市と似ている。

公民館活動は多岐にわたり、暇があったら参加してみたい魅力的なものが多い。しかし、現実に現職の人は昼は勤務時間中の人が多く、昼のプログラムは家庭婦人と老人に限られる。夜とウィークエンドは勤め人も参加できるが、一般に勤め人は会社などゲゼルシャフトへの帰属意識が強く、ゲマインシャフトの中で活動するのを好まない傾向がある。昼間にあっても、ふくしま社会保険センターで実施している健康づくり講座（ジャズダンス・エアロビダンス・社交ダンス・ヨーガ・太極拳）や生きがい講座（茶・華・絵・文芸）など、商業ベースでの文化・スポーツ活動が増えてきており、公民館活動との機能分担が都市部ではみら

れるようになってきている。

Ⅳ おわり

福島市の公民館活動を調べた結果、次のようなことが分かった。

- 1) 全国に先がけて市町村での公民館設置を達成し、予算、専任職員の面では配慮が行き届いている。
- 2) 公民館の建設がコミュニケーションセンター・農村環境改善センターなどとの併設施設ではなく、それ自身の独立した建物である。
- 3) 施設利用の登録団体数は全市で888あり、その活動内容も多岐にわたり、とくにスポーツ・芸術・文芸などのサークルが多い。
- 4) 福島市という東北の一県都が、全国一の公民館の歴史と活動を展開している事実が分った。が、その理由はこの報告ではできなかった。

本報告作成に当り、平成8年度文部省科研費基盤研究（A）（1）「日本農業の耕作方式と再生産過程に関する農村システム論的研究」（代表者 斎藤 功）および同基盤研究（B）（2）「わが国における技術革新に伴う空間組織の変容に関する地理学的研究」（代表者 高橋伸夫）の一部を使用させていただいた。

【参考文献】

- 佐々木 博(1995):松本市における公民館活動. 地域調査報告, 17, 1-8.
福島県教育委員会(1972):『福島県教育史 第1巻』.
福島県教育委員会(1996):平成7年度 福島県社会教育統計要覧.
福島県教育センター(1975):『福島県教育史 第4巻』
福島県公立学校退職校長会(1969):『明治百年福島県教育回顧録』.
福島市教育委員会(1996):平成8年度 福島市の生涯学習・社会教育.
福島市史編纂委員会(1979):『福島教育』,『福島市史』別巻Ⅱ.
福島市史編纂委員会(1982):『福島の町と村Ⅰ』,『福島市史別巻Ⅴ』.
福島市史編纂委員会(1983):『福島の町と村Ⅰ』,『福島市史別巻Ⅵ』.